

はじめに

「Hello！ 由紀先生、今日のニュースは、な～に？」

夕方5時。小学5年生の子供達が、元気に教室に入ってきます。

「わぁ！ 今日はやっぱりノーベル賞だ！」

この日は、吉野彰さんがノーベル化学賞を受賞したニュースを勉強する日です。「今日のニュースプリント」を配り、皆で音読。確認問題を解いて、生徒さん一人ひとりに感想を発表してもらいます。

「リチウムイオン電池は、すごいです！」

「ぼくのスマホにも、リチウムイオン電池が入っているんですね！」

“Thank you, Dr. Yoshino! You changed our lives!”

(※この生徒さんは英語で発表しました)

難しい単語があっても嫌がるどころか、瞳をキラキラさせてニュースを勉強する子供達。

「ニュース」授業は、立林塾になくてはならない存在です。

私の塾「立林塾」では、小学生・中学生・高校生のすべての学年で、最新の英語ニュースを読んで自分の意見を述べる授業をしています。

ニュース教材を作っているのは、私です。毎日7～8種類の英字新聞をネットで読み、話題の記事をピックアップし、小・中・高それぞれのレベルの英語で記事を書き直して、オリジナルの教材プリントとYouTube動画を作っています。

自分が子供の頃から時事問題が得意だったか？ と聞かれたら、違います。数年前まで、まさか自分が英語ニュース教材を執筆し、販売することになる

とは、これっぽっちも考えていませんでした。

「ニュース教材を作り始めたきっかけは何ですか？」と聞かれるたびに、いつも答えています。「生徒さん達の学びの情熱に、突き動かされたからです」と。

小学生の授業が夕方6時に終わり、休憩と準備の後は、夜7時から中学3年生の授業。

この日のニュースプリントのトピックは「高校生の環境活動家、グレタ・トゥーンベリさん、国連で演説」。

YouTubeで実際の演説を聞き、記事を音読して設問を解いた後、中学生に自分の意見を話してもらいます。

「グレタさんは、世界に向けて堂々と演説していて尊敬します。でも、この話し方だと、みんなに生意気だと思われて、嫌われちゃうかも」

「スピーチの中で”People are dying. People are suffering.”の一文が出てくるけど、グレタさんは先進国スウェーデンのお金持ちの家庭で育ったでしょう？ どこで人々が苦しんでいる光景を見たの？ 具体的な情報や、数字のデータがあれば、もっと良いんじゃないかな」

「演説するだけで地球温暖化はストップしません。もしグレタさんが、公園でゴミ拾いをしたり、砂漠で植林活動をしていたら、皆が真似すると思います。彼女ならインフルエンサーになれる」

「学校を休んでFriday for Futureの運動をするヨーロッパの高校生達は、まるでお祭りしているみたい。香港の中高生達が、切羽詰まって民主化デモをしているのと対照的です。私は学校を休みたくないの、Friday for Futureの運動に参加しないで、違う方法で環境保護活動をしたいです」

私は驚きました。中学生は中学生の目線で、実に鋭く世の中を観察していることに。

彼らはグレタさんを全面支持するでも全面否定するでもなく、良いところと悪いところを分けて、冷静に議論していたのです。

最後に、夜8時半から始まる、高校1～2年生混合クラス。

この日は、マララ・ユスフザイさんの国連スピーチ（2013年7月）の原稿の一部を皆で音読した後、少し前に起こった「川崎市登戸通り魔事件（2019年5月28日）」の英文記事（教材用に私が編集・執筆したもの）を読み、最後に授業全体の感想を生徒さん達に語ってもらいました。

「マララさんは僕たちと同年代で、こんなスピーチができて立派ですね」

「すべての子供に教育は必要だって、マララさんが言ってる。それは正しいです。でもね、川崎の殺人事件の犯人は、何であんな事件を起こしたんでしょうね？」

「僕たちみたいな豊かな国に住んで、学校に行って義務教育を受けていても、ああいう殺人事件を起こす人がいるって、なんか、世の中おかしいよ」

「やっぱりさ、教育は絶対に大事だけど、愛がないとダメなんじゃないかな？」

「殺された被害者の子供達とご家族はすごく気の毒だけど、犯人は家庭環境が複雑で、愛が足りなかったんだね」

「だとしたら、犯人もかわいそうだな……」

彼らのやりとりを見て、私は頭を打たれたようなショックを感じました。

自分自身は、この事件のニュースを聞いたとき、「犯人が1人で自殺すればいいのに、罪のない人達をたくさん巻き込むなんて、許せない！」と憤りを感じました。しかし、高校生達は私よりさらに一歩先へ踏み込み、マララさ

んのスピーチと日本の通り魔事件という、一見全く別の2つのニュースを繋げて思考を深め、根本的な問題の本質に迫っていたのです。私は、感情的にしか考えられなかった自分を恥ずかしく思い、生徒さん達の洞察の深さを尊敬しました。

初めて教師になった日、赴任先の高校で、事務長先生が教員全員に向かって語った言葉を、今でもよく思い出します。

「無能な教師は、教科書かマニュアルがないと教えられない。有能な教師は、生徒から学ぶ」

ニュース授業をするようになってから、この言葉の真実味を実感しています。私は、生徒から学ぶ有能な教師でありたいと思い、そして、ならなければならぬと、常に強く感じています。教師の私は、毎日生徒さん達から学び、どうしたら面白い授業をして彼らの気持ちに応えられるか、格闘しています。

国際理解教育、そして英語教育が、ますます重要性を持ち始めた現代。なぜ私が、小中高生向けの英語ニュース教材を作り始めたか。そして、ニュース授業を通して、日本の子供達のために英語教師ができることは何か。その問いかけに対する自分の答えを、この本でお伝えします。

椿 由紀